



斉藤 ひろ子 Saito Hiroko
さんぶ木楽会 会長

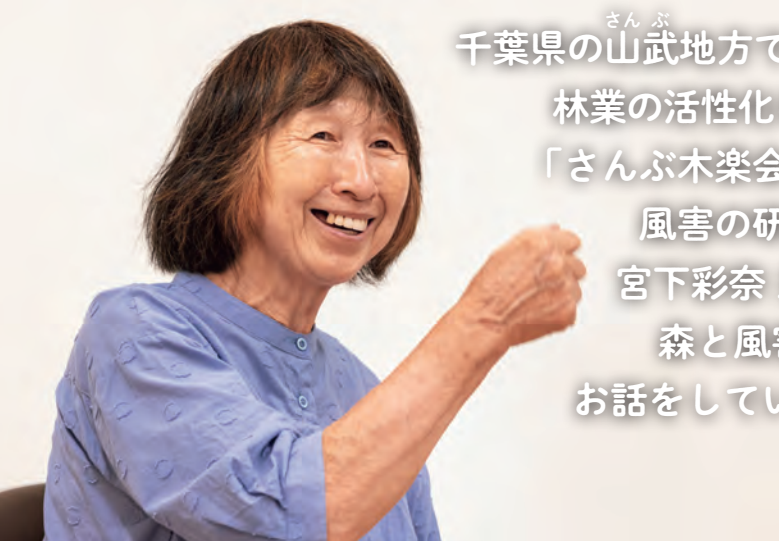


手島 芳枝 Tejima Yoshie
林家・さんぶ木楽会 前会長

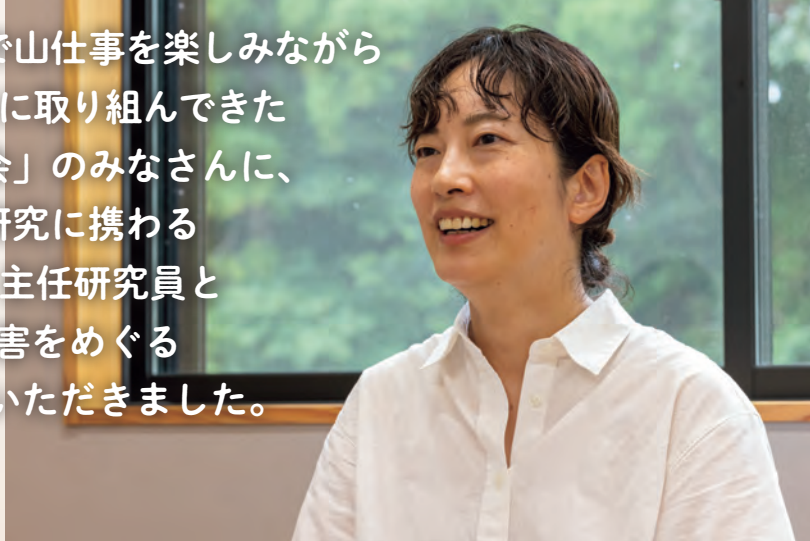
「風の道」ができない 森づくりをめざして

巻頭●座談

千葉県^{さんぶ}の山武地方で山仕事を楽しみながら
林業の活性化に取り組んできた
「さんぶ木楽会」のみなさんに、
風害の研究に携わる
宮下彩奈 主任研究員と
森と風害をめぐる
お話をいただきました。



山沢 敏江 Yamasawa Toshie
林家・さんぶ木楽会 会員



宮下 彩奈 Miyashita Ayana
森林災害・被害研究拠点

千葉県森林組合北総事業所(同県東金市)にて

Photo by Godo Keiko

宮下●手島さんは「さんぶ木楽会★」の初代会長をされていたが、会はどういう経緯で誕生したのでしょうか？

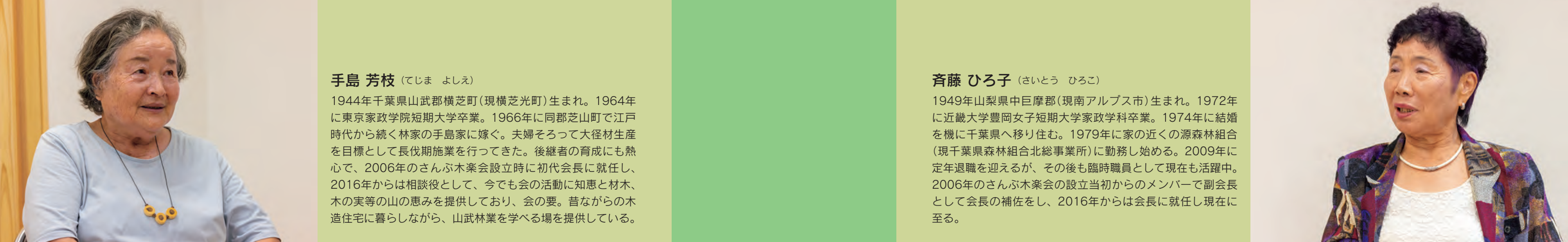
手島●サンブスギ*は江戸時代から栄えた銘木ですが、林業の不振や病害にやられたこともあって手がまわらなくなり、荒れる森も出てきたんです。そんな中、千葉県の山武農林振興センターから提案があって、林業に女性の力をと2006年に立ち上げたのが「さんぶ木楽会(以下、木楽会)」です。山武地区は平地林が多くて女性でも作業がしやすいんです。

宮下●現会長の斉藤さんも会の立ち上げメンバーのおひとりですね。

斉藤●はい。森林組合に30年ほど勤め、山主さんたちとの仕事を宝物として60歳で退職しました。在職中に、県から女性だけの林業の集まりを考えているので声をかけていただき、私は山林は持っていないませんが、今までの経験を活かしてみたいと立ち上げに参加しました。会は7人でスタートしたのですが、当初はだれも顔見知りじゃなかったんです。それが、これからの山武の林業をどう守っていくか、という強い想い^{おも}を持った方たちばかりで、いまでは姉妹のように仲良くなりました。

宮下●山沢さんは、どのような経緯で会に参加されたのですか？

山沢●私は結婚を機にこの地に移り住みました。主人が山が大好きだったので、勤めの休日のたびに一緒に山へ行行って、木を植えたり枝打ちをしたりして森を育ててきたんです。退職を機会にもうちょっと山のことについて知りたいと思って木楽会に入りました。



手島 芳枝 (てしま よしえ)

1944年千葉県山武郡横芝町(現横芝光町)生まれ。1964年に東京家政学院短期大学卒業。1966年に同郡芝山町で江戸時代から続く林家の手島家に嫁ぐ。夫婦そろって大径材生産を目標として長伐期施業を行ってきた。後継者の育成にも熱心で、2006年のさんぶ木楽会設立時に初代会長に就任し、2016年からは相談役として、今でも会の活動に知恵と材木、木の実等の山の恵みを提供しており、会の要。昔ながらの木造住宅に暮らしながら、山武林業を学べる場を提供している。

斉藤 ひろ子 (さいとう ひろこ)

1949年山梨県中巨摩郡(現南アルプス市)生まれ。1972年に近畿大学豊岡女子短期大学家政学科卒業。1974年に結婚を機に千葉県へ移り住む。1979年に家の近くの源森林組合(現千葉県森林組合北総事業所)に勤務し始める。2009年に定年退職を迎えるが、その後も臨時職員として現在も活躍中。2006年のさんぶ木楽会の設立当初からのメンバーで副会長として会長の補佐をし、2016年からは会長に就任し現在に至る。



巻頭●座談

大きな気持ちを持って取り組まないと 林業はやり続けることができません。

山武地区の林業は、2019年の台風で大きな被害を受けたと聞きました。
●千葉県はふしぎと台風がよけて通ることも多かったのですが、19年の台風15号のときは直撃を受けました。それでたくさんのが風で倒されてしまいました。道路ぎわの木も折れて道路をふさいでしまい、電線も切れて大災害となりました。
●うちは先祖代々の山林が約30ヘクタールほどあって、無節の柱をとうろと長いこと林業に力を入れてやってきました。でも、いまや無節の柱が育っても使ってくれる人がいません。そこへ19年の台風で、見事に森がやられました。木が折れると草が入ってつるが絡まり荒れるので、性懲りもなくまたそこに植林をしました。林業は不振ですが、夫は環境のためといってがんばっています。それくらい大きな気持ちを持って取り組まないと林業はやり続けることができません。
●昔から女性も家業の山仕事を手伝うことが普通のことだったのですか？
●そうですね。山へ行く時には一人で行っちゃダメで、必ず2人で行きなさいって言われていました。これは昔からです。結婚を機に主人と山へ行くようになって、見よう見まねでナタやノコギリの使い方、木の植え方を覚えしました。
●根は広げて植えないとかね！
●山の手入れはなかなか大変ですね。ところで、森の中で風の吹きやすい方向、被害の出やすい場所とかはあるのでしょうか？
●樹齢80年ぐらいの木が何本か風に倒されたので伐ったことがあります。そしたらその後の台風でそこがちょうど風道になってしまっ、道路の反対側にある住宅の屋根がみんな飛ばされてしまいました。隣の八街市は風が強く、畑の周りをヒノキやサワラで2列ぐらいずつ囲んで、作物を守っています。サワラは風に強いのかな？
●八街の砂は、「やちぼこり」と言っていて有名なんです。空が真っ赤になる。サワラは、木が柔らかくて造作がしやすいので植えられたのでしょう。桶とかお餅を入れる大きな木箱、障子の棧、棺桶などに使っていました。でも芯に穴があきやすいから風に強くはないと思います。葉っぱが茂っているの、砂ぼこりを避けるにはいいのですね。
●ヒノキも結構葉っぱが茂るね。
●山では、防風林を造って植林するようなことはしないのですか？
●外周にヒノキを植えることはありません。
●うちは隣の境にカシを植えています。
●ちがう樹種を植えると、境界がわかりやすいからね。いま皆さん、いちばん悩んでいるのが、山の境界がわからなくなること

巻頭●座談

道路ぎわの木も折れて道路をふさいでしまい、 電線も切れて大災害となりました。

山武地区の林業は、2019年の台風で大きな被害を受けたと聞きました。
●千葉県はふしぎと台風がよけて通ることも多かったのですが、19年の台風15号のときは直撃を受けました。それでたくさんのが風で倒されてしまいました。道路ぎわの木も折れて道路をふさいでしまい、電線も切れて大災害となりました。サンプスギは非赤枯性薄腐病*に罹りやすく、幹が侵されて腐ると風害に弱いんです。台風のと再造林も続けてますが、そんな経緯もありサンプスギを育てる方は、いまではほとんどいません。
●うちは先祖代々の山林が約30ヘクタールほどあって、無節の柱をとうろと長いこと林業に力を入れてやってきました。でも、いまや無節の柱が育っても使ってくれる人がいません。そこへ19年の台風で、見事に森がやられました。木が折れると草が入ってつるが絡まり荒れるので、性懲りもなくまたそこに植林をしました。林業は不振ですが、夫は環境のためといってがんばっています。それくらい大きな気持ちを持って取り組まないと林業はやり続けることができません。
●昔から女性も家業の山仕事を手伝うことが普通のことだったのですか？
●そうですね。山へ行く時には一人で行っちゃダメで、必ず2人で行きなさいって言われていました。これは昔からです。結婚を機に主人と山へ行くようになって、見よう見まねでナタやノコギリの使い方、木の植え方を覚えしました。
●根は広げて植えないとかね！
●山の手入れはなかなか大変ですね。ところで、森の中で風の吹きやすい方向、被害の出やすい場所とかはあるのでしょうか？
●樹齢80年ぐらいの木が何本か風に倒されたので伐ったことがあります。そしたらその後の台風でそこがちょうど風道になってしまっ、道路の反対側にある住宅の屋根がみんな飛ばされてしまいました。隣の八街市は風が強く、畑の周りをヒノキやサワラで2列ぐらいずつ囲んで、作物を守っています。サワラは風に強いのかな？
●八街の砂は、「やちぼこり」と言っていて有名なんです。空が真っ赤になる。サワラは、木が柔らかくて造作がしやすいので植えられたのでしょう。桶とかお餅を入れる大きな木箱、障子の棧、棺桶などに使っていました。でも芯に穴があきやすいから風に強くはないと思います。葉っぱが茂っているの、砂ぼこりを避けるにはいいのですね。
●ヒノキも結構葉っぱが茂るね。
●山では、防風林を造って植林するようなことはしないのですか？
●外周にヒノキを植えることはありません。
●うちは隣の境にカシを植えています。
●ちがう樹種を植えると、境界がわかりやすいからね。いま皆さん、いちばん悩んでいるのが、山の境界がわからなくなること

山武地区の林業は、2019年の台風で大きな被害を受けたと聞きました。
●千葉県はふしぎと台風がよけて通ることも多かったのですが、19年の台風15号のときは直撃を受けました。それでたくさんのが風で倒されてしまいました。道路ぎわの木も折れて道路をふさいでしまい、電線も切れて大災害となりました。
●うちは先祖代々の山林が約30ヘクタールほどあって、無節の柱をとうろと長いこと林業に力を入れてやってきました。でも、いまや無節の柱が育っても使ってくれる人がいません。そこへ19年の台風で、見事に森がやられました。木が折れると草が入ってつるが絡まり荒れるので、性懲りもなくまたそこに植林をしました。林業は不振ですが、夫は環境のためといってがんばっています。それくらい大きな気持ちを持って取り組まないと林業はやり続けることができません。
●昔から女性も家業の山仕事を手伝うことが普通のことだったのですか？
●そうですね。山へ行く時には一人で行っちゃダメで、必ず2人で行きなさいって言われていました。これは昔からです。結婚を機に主人と山へ行くようになって、見よう見まねでナタやノコギリの使い方、木の植え方を覚えしました。
●根は広げて植えないとかね！
●山の手入れはなかなか大変ですね。ところで、森の中で風の吹きやすい方向、被害の出やすい場所とかはあるのでしょうか？
●樹齢80年ぐらいの木が何本か風に倒されたので伐ったことがあります。そしたらその後の台風でそこがちょうど風道になってしまっ、道路の反対側にある住宅の屋根がみんな飛ばされてしまいました。隣の八街市は風が強く、畑の周りをヒノキやサワラで2列ぐらいずつ囲んで、作物を守っています。サワラは風に強いのかな？
●八街の砂は、「やちぼこり」と言っていて有名なんです。空が真っ赤になる。サワラは、木が柔らかくて造作がしやすいので植えられたのでしょう。桶とかお餅を入れる大きな木箱、障子の棧、棺桶などに使っていました。でも芯に穴があきやすいから風に強くはないと思います。葉っぱが茂っているの、砂ぼこりを避けるにはいいのですね。
●ヒノキも結構葉っぱが茂るね。
●山では、防風林を造って植林するようなことはしないのですか？
●外周にヒノキを植えることはありません。
●うちは隣の境にカシを植えています。
●ちがう樹種を植えると、境界がわかりやすいからね。いま皆さん、いちばん悩んでいるのが、山の境界がわからなくなること

山武地区の林業は、2019年の台風で大きな被害を受けたと聞きました。
●千葉県はふしぎと台風がよけて通ることも多かったのですが、19年の台風15号のときは直撃を受けました。それでたくさんのが風で倒されてしまいました。道路ぎわの木も折れて道路をふさいでしまい、電線も切れて大災害となりました。
●うちは先祖代々の山林が約30ヘクタールほどあって、無節の柱をとうろと長いこと林業に力を入れてやってきました。でも、いまや無節の柱が育っても使ってくれる人がいません。そこへ19年の台風で、見事に森がやられました。木が折れると草が入ってつるが絡まり荒れるので、性懲りもなくまたそこに植林をしました。林業は不振ですが、夫は環境のためといってがんばっています。それくらい大きな気持ちを持って取り組まないと林業はやり続けることができません。
●昔から女性も家業の山仕事を手伝うことが普通のことだったのですか？
●そうですね。山へ行く時には一人で行っちゃダメで、必ず2人で行きなさいって言われていました。これは昔からです。結婚を機に主人と山へ行くようになって、見よう見まねでナタやノコギリの使い方、木の植え方を覚えしました。
●根は広げて植えないとかね！
●山の手入れはなかなか大変ですね。ところで、森の中で風の吹きやすい方向、被害の出やすい場所とかはあるのでしょうか？
●樹齢80年ぐらいの木が何本か風に倒されたので伐ったことがあります。そしたらその後の台風でそこがちょうど風道になってしまっ、道路の反対側にある住宅の屋根がみんな飛ばされてしまいました。隣の八街市は風が強く、畑の周りをヒノキやサワラで2列ぐらいずつ囲んで、作物を守っています。サワラは風に強いのかな？
●八街の砂は、「やちぼこり」と言っていて有名なんです。空が真っ赤になる。サワラは、木が柔らかくて造作がしやすいので植えられたのでしょう。桶とかお餅を入れる大きな木箱、障子の棧、棺桶などに使っていました。でも芯に穴があきやすいから風に強くはないと思います。葉っぱが茂っているの、砂ぼこりを避けるにはいいのですね。
●ヒノキも結構葉っぱが茂るね。
●山では、防風林を造って植林するようなことはしないのですか？
●外周にヒノキを植えることはありません。
●うちは隣の境にカシを植えています。
●ちがう樹種を植えると、境界がわかりやすいからね。いま皆さん、いちばん悩んでいるのが、山の境界がわからなくなること



2019年の台風15号による
風害での倒木(左)と、その後
タケの侵入を受けた林地。

*Key Words 非赤枯性薄腐病

幹に縦長の溝状の腐朽を生じ、材質の劣化や成長阻害を引き起こす。木材腐朽菌のチャアナタケモドキが病原菌で、1960年代に茨城県南部で初めて確認され、サンプスギに多発した。

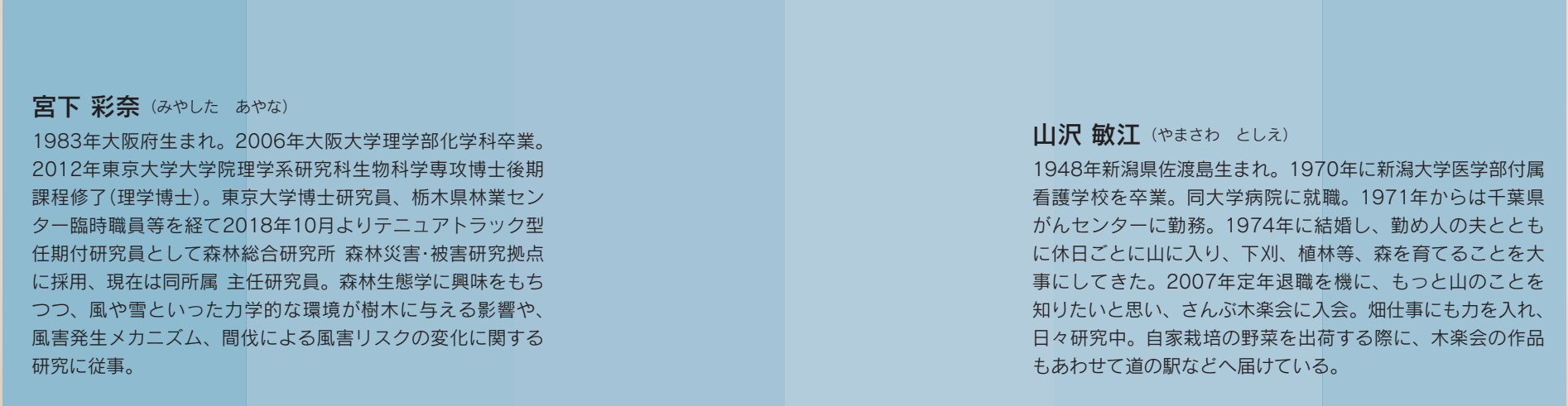
*Key Words サンプスギ

山武地域で挿し木(クローン)苗で植林されてきたスギの在来品種。まっすぐに伸びる幹と年輪の詰まった優良な材質を持つ。大都市・江戸の建築用材や船材の需要を満たす木材として重宝され、林業地として栄えた。



*Key Words さんぶ木楽会

千葉県山武地区で2006年に山武林業振興センターの呼びかけに応じた林業に関わる女性たち7人で立ち上げた会。管理の行き届かない森林での植林、枝払い、下刈り、間伐などの山仕事を請け負っている。楽しみながら木を楽しもうと名づけられた。サンプスギを使った箸やコースターなど(左写真)のクラフト制作も行っている。



巻頭◎座談

これぐらい伐ればこれぐらい危なくなるということを、
言えるようになればいいなと。

手島 ● 多分、樹種にもよるよね。
斉藤 ● 風害に強いのがヒノキになって個人的には思ってます。森の中に風が入らないようにするのがよいという考えがあつて、それで林縁にヒノキを植えたんです。ヒノキは風が強ければ曲がるんですよ。スギみたいに真っ直ぐには育たない。風を防ぐ効果はあると思います。病気にも強いし、硬さもあるから強いのかなって。
宮下 ● シンプルに考えると、確かに材が硬いとか密度が大きいものがやはり強い。太さと長さのバランスとか樹形とかもありますが。
斉藤 ● 二股になってないとか病気にかかってないとか、いろんな要素があると思います。昔この辺りではヒノキのことを「イシビ」と呼んでいて、ヒノキと呼ぶ人はあまりいなかったんです。火の木というと火事がおきやすいイメージになるから、ヒノキという名前をこの辺りの人は敬遠してたんですね。それでイシビ（石火）ってわざわざ石をつけて石のように硬いみたいな意味を持たせて呼んでいたんじゃないかと思うんです。
宮下 ● さいごに、木楽会としての今後の目標などお聞かせ下さい。
斉藤 ● 自分たちがこの20年の間に植えてきた森の木々が、どれくらい成長しているかを見て歩きたいと、このあいだの総会ではみんな

で話してたんです。あと、タケがはびこっているという話がありました、そのタケを材料にして竹箒（たけずき）を作ろうかとも話し合っています。これまで通りサンブスギを使った箸やコースターも作っていきますが、新しいことにもチャレンジしていきたいと。とはいえ無理をすることのないように、自分たちがやってきた道を振り返って確認しながら、やり続けることが大事かなと。本当に細々とした夢なんですから、みんなの意見を聞きながらやっていきたいと考えています。
山沢 ● 十数人寄るといろんなアイデアが出てきます。意見交換をしながら、木楽会のメンバーはみんな木を楽しんでいます。
手島 ● 杉玉も作ったんですよ。
斉藤 ● 杉玉は、枝を挿すのも楽しいし、丸くするのも楽しい。スギの葉の色が緑から茶に変わっていくのですが、それが面白い。
手島 ● あとコケ玉もね。コケ集めに行つて。
斉藤 ● 森の中にある木の実生を自分なりにバランスよく植えて、モミジも植えたりね！
山沢 ● 売れなくても自分が楽しめるし。
手島 ● 売ればもつといいしね！（笑）。
宮下 ● アイデアもどんどん出てきて、すごく楽しそうですね。20年間楽しみながら林業の活動を続けるって、すごいことです。
斉藤 ● 思い返せば、それほど辛いことはなかったよね。楽しみながらやらせていただいて、あつという間の20年でした。
手島 ● そうね。風の害さえ来なければね。
斉藤 ● うん、「風の道」ができないような森づくりをがんばりたいね。



風倒被害で伐採した跡地に、木楽会が請け負って広葉樹のコナラを植林した(右写真)。左の写真は、植林地の前で台風被害や活動について語る会長の斉藤さん(左)と前会長の手島さん。右端は宮下主任研究員。



巻頭◎座談

空間をあまりあけないほうが
「風の道」を防ぐということにつながるわけですね。

ないというわけではなくて、伐る空間をなるべく小さくすることがだいじで、風の通り道になるようなあけ方がよくないということなんです。列状に伐る場合は、山の斜面なら等高線状に伐るといいと思います。
山沢 ● この辺りの山は、平地林が多いのですが、横に2列間伐するとしても風がこっちから来るとか、向こうから来るとかわからない場合はどう考えたらいいんでしょう？
宮下 ● 台風による被害ということを考えるなら、台風はたいいてい南風で巻いてくるので、南に口をあけるような形で列状に伐つてしまつと、そこが風の通り道になってしまいます。ですので列状に伐るのであれば、東西方向がいいのかなと思います。
山沢 ● なるほど。植林するにしても、間伐するにしても、そうしたことを頭に入れておくというのがいいですね。
宮下 ● 木の横に空間があると風が入るわけですが、およそどれくらい空間をあけると風下の木に何倍の力がかかるのかといった事が、少しずつわかってきています。木の高さと同じくらいの幅の空間が風上側にあってしまつと、急激に影響が増していきます。
山沢 ● 空間をあまりあけないほうが「風の道」を防ぐということにつながるわけですね。たしかに伐つた後にとくに風害が多いなつて感じる時つてありますね。
宮下 ● そうしたことをどんどん数値化していつて、これぐらい伐ればこれぐらい危なくなるということ、言えるようになればいいなということで、いま研究を続けています。

斉藤 ● 間伐するのは、20〜30年の木が多いじゃないですか。その期間、できるだけ空間をあけすぎない間伐をするということを、いまだだけの人がわかつているのかなつて、思うんです。のちのちの管理が大変だから思い切つて列状間伐をしちゃおうつて考える人もいると思います。先のことを考えて、あまり空間をあけないように選んで間伐した方が山にはいいんだろつな、風の通り道もできないんだろつな、というのが昔からの感覚ではあつたとは思つのですが。やはり、なるべく風を通さないことが基本なのでしょうね。
手島 ● それを聞いてて思つたんですけれど巻き枯らし*をすれば、「風の道」はできないんじゃないかしら？
斉藤 ● 巻き枯らしは、枯れるまで時間がかかるけど、たぶん「風の道」はできないですね。
手島 ● 逆に風の被害が出やすくなるかな？どんなやり方がベストか、森林総研で調べてもらおう！（笑）。
斉藤 ● 山を造つて守つていくこともだけれど、木を伐ること、ほかに被害を及ぼすかもしれないということも考えないといけないね。いま、台風の被害が心配で、家のまわりの大きな木を伐る方が非常に多いんですよ。昔の人は家のまわりにいろんな木を植えてますから、風の向きによつてはもろに家の方に倒れてくる可能性も高いわけです。台風が来ると大丈夫かなと、風で木がきしむ音を聞くたびに心配になりますね。
山沢 ● 低木を植えても、20〜30年経つうちにすぐに大きくなつちゃうからね。

*Key Words

列状間伐、巻き枯らし

列状間伐は、木を列状にまとめて伐採し、光の入り方や作業効率を改善する間伐方法。林内作業道の整備や機械化と相性がよく、成長促進と森林管理の効率化を目的とする。
巻き枯らしは、幹の周囲の樹皮と形成層を剥ぎ取ることで、水分や養分の流れを止めて立ち枯れさせる方法。



台風15号による風倒被害を受けたご自身の平地林をながめる山沢さん